



5.3 憲法守れ、おおさか総がかり集会（扇町公園）

憲法守れ、軍事費削れ！

「この声をあつとあつと広げよう」

好天の憲法記念日、扇町公園には続々と人が集まりました。集会では、長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授の中村桂子さんの講演から始まりました。

中村さんは、「私たちは核兵器廃絶こそが人類全てを救う道なのだということを訴え続けてきました。私がそこに見出すのは人間の強さです」「被爆国として、平和憲法を誇る国として、あきらめることなく強い信念で対話をすすめていく」とよびかけられました。

市民アピールでは、関西ガザ緊急アクションと、京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワークの方の訴えがありました。

その後、立憲4野党がステージに並び、立憲民主党・森山浩行衆議院議員、日本共産党・辰巳孝太郎衆議院議員、社会民主党党首・福島瑞穂さ

ん、れいわ新選組の柗田健吾さんが挨拶。そして、みんながボテッカーをかけた、「いかに憲法・とめよう大軍拡」をアピールしました。

閉会挨拶が大阪憲法会議・共同センターの丹羽徹さんからあり、参加者は中崎町コースと裁判所コースに分かれてパレードに出発しました。

この集会で私たち大阪AALAは、例年のように国際平和署名を集めました。姫野理事長以下10名が奮闘し、昨年より多くの134筆の署名が集まりました。



# 「トランプのアメリカは 何をやるうとしてしているのか」

\*\*\*分断社会アメリカの現状と変化の可能性\*\*\*

4月実施AALAカフェのまとめ 安井 倫子

はじめに、2024年大統領選挙結果を見直してみよう。日本のマスコミ

のほとんどは「トランプ圧勝」と報道しました。確かに、この図①のように、獲得した州と選挙人の数では、アメリカは共和党（赤色）の国になってしまったように見えます。でも、実際、民主・共和両党が獲得した票数では僅差です。一般投票では共和党49.8%、民主党48.3%でした。それでも、トランプは大統領選挙を制した。

**なぜ?** という疑問に対して、三牧聖子さんというアメリカ史の研究者が『地平』2025年1月号で、三つの理由を挙げています。

①イスラエル問題への対処における民主党の失敗・武器弾薬送付停止をやめなかった。

②移民問題の深刻さ。

③経済問題への政策の欠如。

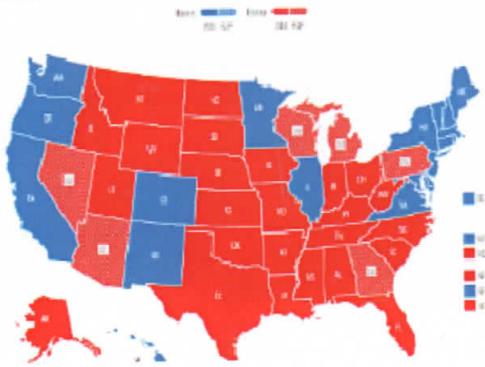
共和党は、これらの国民の関心事に対し「敵」を明確にして、国民の要求を救い上げた、というわけです。

また、今日アドバイザーで参加してくださいっているマットさんは、次のように述べています。

「ハリスが右寄りに変化したこととは大きな間違いだった。民主党の伝統的な右寄りに走る「知恵」は、今回はこれまでにないほど愚かだった。そのことによって、コロナ以後の食料価格と生活用品の価格の高騰による本当の困難を経験した多くの貧しい労働者階級の人々を、民主党から遠ざけてしまった。」

お二人が述べているように、また、日本のマスコミの「民主党の左傾化」とい

う報道とは裏腹に、なにも対案を出しえない民主党に失望して、支持者でさえ投票しなかったことが、過激で非現実的ではあっても「政策」を提示しているトランプを勝たせることになったのではないかということでしょう。



次に第二次トランプ政権のもとで、アメリカ社会はどうなっているのかについて、見てみましょう。

## 選挙中、トランプはMAGA（アメリカを再び偉大に）を掲げました。最近、

こんな記事を見つけました。「ネブラスカ州のMAGA農民は、泣き崩れ、自分たちの利益に反する投票

をしたことを悔やんでいる。」と。

ネブラスカ州はまさに中部の典型的な農業州で、人口は約200万人、圧倒的な共和党支持州です。都市部は人口増があるものの、農村部は過疎化が進んでいます。選挙後、トランプの移民排除政策により、この州の「不法移民」も強制送還されました。ところがこれらの不法移民は州内の農業労働者の70%を占めており、彼らがいなくなったことにより、ネブラスカの重要な産業である、トウモロコシ、大豆などの生産の担いを失ってしまったのです。

きつい、低賃金労働である農業を不法移民が引き受けていたということに、ネブラスカ州民はやっぱりついたということでしょう。また、トランプの「報復的」高関税政策によって世界経済、のみならず自国の経済も大混乱におとしられていることは日本のジャーナリズムも連日取り上げています。「M

AGA」は破綻しています。

トランプはまた、自分は「ピースメーカー」になりたいたのだと宣誓式の日述べ、パレスティナとウクライナに平和をもたらさうするのは自分しかないと言語していました。

プーチンとネタニヤフに寛容なトランプ。ジェノサイドを進めるイスラエルに何も言わず、プーチンと意気投合し、EUの極右勢力を応援しに行くイーロン・マスクを政権に抱え、カナダを51番目の州にするなどというトランプ。「ピースメーカー」にはなりません。

**ちなみに、ゆゆしき問題**は、トランプ政権が、政府公文書・ウェブサイトの書き換え削除を大量に行っていることです。『ニューヨーク・タイムズ』は約200の語彙がやり玉に上がり、消されていると暴露しています。

これらの語はトランプの嫌う「WOKE（目覚めた人達・リベラル）」が使う言葉だからです。多様性、人権、人種平等、ジェンダー、

LGBTQ、気候変動などに関する用語が消えています。「トランプ版「赤狩り」が始まったーリベラル思想の温床である大学教育を弾圧せよ」と『ニューズウィーク』誌電子版が報じ、『日本経済新聞』も、「米サイト1000ページ超消失 トランプ政権操作か」(2025年4月30日)と報じました。

また、歴史的記述についても、公民権運動や女性の地位向上運動などのリーダーの名前を消し去ったりして、「修正」をおこなっています。言論、学問の自由を取り上げ、国民が真実に迫る権利を奪うトランプ政権下のアメリカはもはや「自由と民主主義」のリーダーではありません。

次にこのアメリカの「凋落」を、もう少し長いスパンで歴史的に検証しておきたいと思います。(以下次号に)

日本母親大会フレ企画(4/26)分科会3  
「食と農業問題」に参加して

仁科 隆

大阪農民連事務局長(能勢町議会議員)である中西頭治さんからお話していただきました。

中西さんがいろいろなネタを提示し、現状は危機的状态である内容が縷々説明されました。

受講者から、テレビ報道などで時給10円という報道があり「ウソやろう!」と思っていたら、10円どころか赤字なんだそうですね、という質問がありました。

まだまだ安いと言われる日本の最低賃金ですら、時給1055円なのですから。

それに対し中西さんは、自家が1ヘクタールのコメ農業従事者であることを明かし、毎年70万円の赤字なのだそう、その赤字は議員のボーナスで補填して

いると言っていました。ではなぜコメ農家を続けているのかというと、やはり伝統や自然を守るという義務感がそうさせているのだそうです。

そして日本の農家は圧倒的に兼業農家だからやって行けるんだそう、専業農家としてやっていると15ヘクタール以上の農地を必要とするが、80%は零細な兼業農家であるとの話がありました。

また、最近コメの高騰が問題になっているが、誰かが買い占めているのか、という質問がありました。ですが、どうもそうではないようです。

コメはなまものだから、冷蔵倉庫が必要で保管にもすごくお金がかかり、普通の業者じゃ3

ヶ月しか持たないのだそう、買い占めの効果はないようです。

やはり、コメは現実に足りなくなってきたというのです。

さらに、政府は、食糧自給率はカロリーベースで38%が43%に増えたというが、真っ赤な偽り。以前は大人の摂取量は、男女を平均し普通に2200キロカロリーで計算していたのですが、最近は生きる限界の1800キロカロリーで計算したから、そうなっただけのようです。一人当たりのカロリー摂取量を8割に減らしたのですから当然見かけの自給率が上がるわけですね。

またこれは食糧単体のパーセンテージで、輸入している肥料や機械を動かす燃料を入ると、真の自給率は10%以下になるのだそうです。これはもう食料危機と言わざるを得ないのだそうです。

このような話を聞いてい

ると、先ず農家が赤字とならず十分な所得を得る必要があることを痛感します。

過去に、政府が農地の耕作面積当たり一定の補助金を出すという政策を施行し、専業農家が大型の機械を購入してコメ造りに参入するという現象が起きましたが、安倍政権がそれを廃止してしまい、結果として高価な機械を購入した専業農家が倒産してしまったりということもあつたようです。

これらは全て、減反政策を進めてきた政府の失策であることは明らかだと思われました。

私は、今までマスコミ等で断片的に農業問題を知っていたつもりでしたが、この分科会に参加して初めて、我が国の喫緊の課題である農業問題の本質が理解できてよかったです。たと思つていきます。



# 八鹿高校事件50周年

## 「映画と講演のふたつに参加して」

その①

### 許されない 教育 現場にかけられた 集団暴力!!

4月29日に熊取町・キテーホールにて、映画「八鹿高校事件」の鑑賞と、当時八鹿高校2年生であった濱道生さん(阪南大学名誉教授)による講演を聴くことができました。

#### ◇当時私も教師を

50年前の当時も自身が高校現場にあったため、大阪においても解放同盟(朝田一派)による「窓口一本化」を挺に行政と教育現場への様々な介入と圧力があり、中でも矢田事件(解放同盟による中学教師に対する暴行監禁事件)のことや、「同和教育とは?」との問いに、分会教研などで論議したことなどを思い起こしました。ちなみに今は「同和教育とは、特別な範疇に限ることなく、歴史・社会教育をはじめ、あらゆる教科の中でその学力の向上を保障しながら、全体的な人々の人権の尊重を謳うこと」ではないかと思っておりますが・・・

この講演の後、「八鹿高校事件」は教育現場における特殊な事件で済ますことができないなと感じたことです。何故なら本来弱いもの同士が、話し合い、力を合わせ、民主主義社会へ共通の敵・権力者や利権者に対して抵抗し、闘いを挑むべきなのに、分断され、差別され、さらには差別の再生産をも繰り返しながら、見事に権力者と利権者に利用されていることです。「差別」と言う言葉に替わり、「既得権者」「自己責任」「負の遺産」等々、白



を黒と弄して弱者を対立させ、切り捨てていくやり方がある。今も続いているではありませんか。その意味でも「八鹿高校事件」の記憶は、今の我々の身近な警鐘となる筈です。

#### ◇「八鹿高校事件」とは

1974年11月22日午前9時過ぎ、外部団体による教育現場への不当な介入に対して抗議行動を行うため、年休を取り郊外に出た八鹿高校教職員69人に、八鹿町新町路上で「解放同盟八鹿高校差別教育糾弾共闘会議」を名乗る人々が暴力をふるい、八鹿高校内においても「糾弾」の名のもとに、13時間にも及び陰惨きわまる拷問・リンチを受け、全治1週間から2カ月に達する重症を負わされた事件でした。

八鹿高校事件を講師の濱道生さんは以下のようにその性格をまとめられています。

#### ◇事件の性格

「解放同盟が引き起こした『1974年南但馬事件』と称すべき一連の事件の一つであり、その代表的事件である。その性格として

- ① 解放同盟による暴力的糾弾の頂点
- ② 日本の教育史上最大の教育を対象とした集団暴力
- ③ 行政・教育委員会・警察・マスコミが一体となった権力犯罪
- ④ 地域ファシズム・地域

総動員体制の中での解放同盟による地域支配の4つに特徴付けることができる。この1974年南但馬事件は『部落解放を巡る路線対立』によるものでも『同和教育のあり方を巡る』事件でもなく、解放同盟が意に沿わぬ人達を一方的に攻撃した事件と言える。その被害者は八鹿高校教職員、八鹿高校生、地域住民であり、この闘いは人権と治安回復の闘いであり、自由と民主主義を回復する闘いであった。また闘いの主役は、八鹿高校教職員と八鹿高校生、さらに地域住民であり、そして全国の支援者の方々であった」と述べ、この闘いの特徴として次の2点を強調されています。

① 個人ではなく学校全体が攻撃対象となり、教職員全体が団結して戦い抜いたこと。

② 生徒自治会が解同系勢力と闘い、地域だけでなく全国に「八鹿の真実」を伝える活動を繰り広げていったこと。

このように教育現場の中で、自由と民主主義を固く守り抜く勇氣と団結力を持つ教職員集団と生徒自治会によるクラス・学年・クラブを越えた強固で行動力のある生徒集団であるからこそ、解放同盟による暴力的介入の矛先となったと言えます。

#### ◇事件の背景

「1974年、すでに南但馬においては、解放同盟は多くの事件を引き起こしていた。行政を屈服させ、行政が解放同盟の兵站を担ったのだ。具体的には、資金提供、施設の提供、労働力提供である。また地域の治安を守るはずの警察は、解放同盟の暴力を黙殺し、言論の自由を守るべきは、

解放同盟による言論抑圧に加担し、解放同盟の引き起こした深刻な事件を全く報道しないか、解放同盟の主張に沿う報道を行った。さらに社会党系労組(日教組

を含む)が解放同盟と連携し、解放同盟の集會に組合員や生徒を動員していた。これらが解放同盟による暴力的糾弾を極限にまでエスカレートさせていった」

#### ◇解放研

「八鹿高校を除くあらゆる中学校・高校で解放研がつくられた。解放同盟は解放研を通じて学校に介入・支配を強め、教師・生徒の監視・密告・糾弾を行っていた。中学校の解放研が同校の生徒を差別者と決めつけ、中学生が中学生を糾弾していた。

八鹿高校では、すでに生徒自治会に正式に認められ活動している「部落研」が存在している、教職員が「解放研」設置を認めなかったが、校長が職権で「解放研」の部室を与えた。生徒自治会に同好会設立願いさえ出さず、そのため「解放研」は教職員の立場からも生徒自治会の立場からも未公認の団体であった」

11・22事件の直前「南但馬のありとあらゆる団体が『共闘会議』に組織されていた。町議会・婦人会・商工会・農協・PTA・校長会・教頭会・自治労などである。戦前の国家総動員体制の地域版であった」

「県教委・校長は解放同盟の八鹿高校への自由な出入りと集會開催を許可し、彼らは連日校内でシュプレヒコールを繰り返していた。さらに中学校の教師が解放研を引率して参加し、八鹿高校差別教育糾弾!など、中学生によるシュプレヒコールを上げさせていった」

「圧倒的劣勢と暴力への恐怖に直面しながら、八鹿高校教職員は八高の教育と生徒を守ることを選んだ。そして11月21日事件前日には、生徒達のまえで共闘会議議長・丸尾良昭は『暴力は振るいません』と約束していたのだ。しかし・・・」

1974年11月22日解放同盟は集団下校しようとしていた教職員を白屋路上で暴行し、拉致し、さらに校内に連れ戻した上、自己批判書を書かせることを理由に暴行を加え続けたのです。

「それらを目の当たりにして『暴力はやめろ!』と制止しようとした生徒達も同盟員達に殴られ、逃げ出すと投石された。『こいつは部落研のKだ!』と殴られた生徒もいて、一部生徒は解同の襲撃目標にもなっていた」

「校外に出ていた多くの生徒達が、八鹿警察署に集まり、先生達の救出を要請したが、警察はそれを拒否。そのため生徒達は『暴力反対!先生返せ!』と泣き叫びながら町内をデモ行進をはじめた。校内に残っていた生徒達は、隊列を組んで集団下校し、すでにデモ行進していた生徒達と合流した。しかし警察はこの時は動いた。『無屈デモだ。続ければ逮捕する!』と。やむなく生徒達は八木河原に集まったところ、出入口を解同と警察に封鎖され軟禁状態となった。しかし約一千人の八鹿高校の生徒が集まっていた」

講演における八木河原での生徒集會の場面では、八鹿高校の教職員と生徒達の信頼関係の深さを改めて思い知らされ、感動し目頭が熱くなりました。

大杉 晃  
(次号につづく)



# 卓ちゃんの ミクロネシア通信

その 5

2024年11月からJAIKの日本語教育隊でザビエル高校に行かれていた常任理事卓山卓さんからの通信

## ミクロネシアの ついでについで が話題を

### 学校制度

ミクロネシア連邦やパラオ共和国、マーシャル共和国などのミクロネシア地域は第二次大戦後、国連の信託統治領として米国が長年統治していました。その影響でこれらの国々ではいまだに米ドルを通貨として使用しています。教育制度もアメリカスタイルです。8年間の小（Elementary school）その後J2年制の高校（Junior High



school）と4年制の高校（High school）に進学していきます。英語は小学校入学から学びます。私が赴任している高校では、授業はすべて英語、生徒同士の会話も英語です。アメリカ映画もそのまま理解しています。

### 長い夏休み

今日（5月19日）で年度末の授業が終わりました。明日からは2学期（後期）末の試験です。そして、卒業式は5月30日の金曜日。



5月31日からすべての生徒が夏休みに入ります。新年度のスタートは8月23日！

まるまる3ヶ月、授業がありません。大学進学は評定平均値で決まるし、塾などというものは存在しないし、図書館も本屋もない！

たぶん、3ヶ月間勉強しないで過ごすんだろうな。課題を出そうと思います。

### 知事選

3月4日に知事選挙がありました。現職と新人の一騎打ちです。

投票後数日たって、当選の発表が選管からありません。いまだにないのかも知れません。

現職陣営は当選したと宣伝し、反現職陣営は選挙に不正があったと告発。投票箱のいくつかが、開票前に知事室に運ばれたとの

情報もあります。警察も捜査に乗りだした。

一番大きい島のWenodeは4月1日に再投票が決まった。

裁判所からはそれはフエイクだとの通知、再投票は見送られようだが、いや実際4月1日に実施した！

新人の当選だ、裁判官は板挟みにあつて辞任して機能不全、途中で選管が交代し旧選管と新選管で言うことが違う。

4月15日に現職が就任式を強行。そのために4月10日から非常事態宣言を発出し、反対派の動き



を封じ込めました。逮捕者も出ているそうです。両陣営とも日系です。

などなど全然真相がわからない状況で、情報の一端が聞こえてきたただけでした。



校内など花がきれいです。校内などには色々な花が咲いています。

赤い花は「南洋サクラ」とここに移住した日本人は呼んでいたらしいです。3月くらいから咲きだし、5月下旬でも咲いています。



### 是枝さんが忠岡町長に当選

維新の町長が不祥事で辞職したことによる忠岡町長選挙が、5月18日に実施され、日本共産党推薦の是枝綾子さんが当選しました。

是枝さんは夫とともに大阪AALAの会員です。選挙の応援に会員も奮闘しました。本当にうれしいことです。

維新の前町長は産業廃棄物焼却施設誘致の官製談合違反で辞職していました。ここでも維新の不正・腐敗が住民によって断罪されました。

また、定数3の町議補選でも共産党候補が2位当選し、議会招集権を獲得し、是枝町長を支える大きな力になります。住民本位の新しい忠岡町が期待されます。



支援者とともに喜び  
是枝綾子さん

### 第5回理事会の報告

(5月21日開催)

○定期総会の開催・準備

総会次第 活動の基調 次期体制

○会員拡大の取り組み

活発に行事を開催して入会を働きかけるとともに、地域のつながりを強めていくことも必要、そのために支部づくりをすすめる

○第11次国際署名

目標3000筆をめざしてのとりくみー6月上旬に団体回りをす

○ベトナム元政治囚来日招待事業への協力

11月15日來日〜東京公演〜医療検査〜名古屋公演〜関西公演〜11月21日か22日に帰国の日程 関西での公演などの取り組みは未定  
5月27日の実行委員会で話し合う

○第3種郵便への変更を保留する

※郵便局に問い合わせたところ、かなりの制約があるとの説明を受ける。また、日本AALAも慎重な対応であったため、当面は第3種郵便への変更を保留することとしました



### 川柳

教皇死去核廃絶を訴える

トランプ舌で踊っている地球

戦後八〇年平和運動いざ出番

大阪市旭区 近藤 正

トラ関に 自由の女神 泣いている

裏方も 数える万博 入場者

改憲ノー みなとの森にこだまする

兵庫・西宮 小川 嘉憲

### 編集後記

□ ノー・アザー・ランドは2023年10月までの記録ですが、いま状況はいっそう厳しくなっています。ウクライナも同様です。犠牲は弱者に。破壊と憎しみの連鎖=戦争でなく話し合いによる紛争解決への声を今こそ強く思います。

□ 今月も担当者が少ない中で、また総会の準備も重なり、ギリギリの日程での発行となりました。ワードやパーソナル編集長での機関紙編集を手伝っていただけの方募集します。ご協力を!

### 大阪AALAへのお誘い

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円

\* 会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。

\* 会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします。



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail : osakaaala2@nifty.com HP : http://osakaaala.la.cocan.jp

